

2011.3

第99号

社協だより

福祉わくや



笑顔満開の花が咲く

涌谷中学校3年生「交流訪問」

福祉活動の一環として、ゆうらいふに清掃、交流活動に皆さんが来てくれました。

◆◆◆ 第99号の主な内容 ◆◆◆

- ★涌谷町地域福祉活動計画完成 2~3
- ☆Pick up社協事業 4
- ★ボランティアセンター通信 5
- ☆地域ふれあい活動紹介 6
- ★平成22年度共同募金運動結果報告 7
- ☆ゆうらいふ通信 8~9
- ★社協インフォメーション 10

編集・発行

ふれあいネットワーク

社会福祉法人 涌谷町社会福祉協議会

〒987-0121 宮城県遠田郡涌谷町涌谷字新下町浦192番地
涌谷町高齢者福祉複合施設「ゆうらいふ」内
TEL (0229) 43-6661 FAX (0229) 43-6670
E-mail: shakyo@wakuya-sfk.net

ホームページ: <http://www.wakuya-sfk.net/>

涌谷町地域福祉活動計画

結ぶらんく完成

平成23年度～25年度（3ヶ年計画）

「心をつなぎ、思いやりのある町」

昨年2月23日に地域福祉活動の実践者等を中心とした策定委員会を発足し、1年計画で涌谷町地域福祉活動計画の策定に取り組みました。策定委員会（全4回のワークショップ含む）は第11回を数え、先月7

日、小野寺富雄委員長から涌谷町社会福祉協議会氏会長に「涌谷町地域福祉活動計画『結ぶらんく』（以下「活動計画」）の答申が行なわれました。

活動計画は「みんなが協力して地域の社会福祉（地域福祉）を発展させることを目的とした住民の皆さんに一番身近な行動計画です。

活動計画の中では地域の様々な団体が同じ方向にむかって活動していくことの大切さ、地域の福祉を推進していく主人公は地域住民であること、社協は主人公である住民の皆さんが手をつないで（相互に協力して）活動できるように、お手伝いをすることなど、具体的に分かりやすく掲載しています。



「愛称は『結ぶらんく』」

活動計画は「結（ゆい）」の精神である心をつなぎ、思いやりのある町を目指した計画となっております。また、活動計画を多くの涌谷町民の皆さんに知っていただきたい、親しみをもっていたいただきたいの思いから、愛称を「結ぶらん」と名付けました。

「結ぶらん」という愛称がつけられた背景には、策定の過程で行なわれた町民ワークショップの中で挙げられた声に「以前は涌谷にもあった『結』という繋がり精神が失われてきている」といった内容のものも多くあったことから「結ぶらん」とさせていただきます。

また、活動計画の表紙には福祉ポスターコンクールで最優秀賞を受賞した、涌谷第一小学校6年千坂日向さんの作品「心思いやりの花を」を採用させていただきました。



「活動計画策定に伴う合同報告会開催」

活動計画策定に伴う策定委員と地域福祉関係団体の方を対象に3月1日、合同報告会を開催しました。当日は23名の方に出席をいただき、完成までの経過、ワークショップで挙げられた地域からの声の反映の活かし方について社協から説明をさせていただきました。小野寺委員長か

らは「福祉の向上は、人間生活の基本的条件であり、活動計画を社協発案で策定されたことは有意義なことである。策定の意義として次の3点があげられる。①地域福祉関係者、団体の代表が一堂に会して作ったことは基盤強化になる。②地域福祉活動の評価の基準ができた。③社協の活動の道筋を示すことができた。参加して下さった皆様に意見をいただき、まとめることができ感謝致します。」との言葉を

頂き、また東北学院大学の増子正教授からは「策定委員会により多くの方が手をつなぎはじめていけるように感じられる。皆さん一人ひとりが気軽にできることが分かりやすく記載されており、実現性が高く、こどもが見てもわかる、オリジナルティあふれる計画書になっている。」との言葉をいただき、今後の涌谷町における地域福祉活動の重要性を一層強く感じました。

「これから……」

活動計画の中にはワークショップで見えてきた地域の声が強く反映されています。地域福祉を推進していく主人公は地域住民である皆さんです。

社協は地域の主人公である皆さんが手をつないで活動できるように活動計画を基にお手伝いいたします。



ダイジェスト版 涌谷町地域福祉活動計画 ～ 結ぶらん～

『心をつなぎ、思いやりのある町』

「結^{ゆい}」とは、主に小さな地域や自治会単位における近隣の助け合いを基本とした、地域住民総出で協力し合う「向こう三軒両隣」の精神で成り立っている地域のつながりのことを言います。涌谷町地域福祉活動計画（結ぶらん）は、「結」の精神である心をつなぎ、思いやりのある町をめざした計画となっています。

◆基本理念

誰もがその人らしく 安心して暮らすことができる 地域社会の実現

◆基本目標

◎住民参画・参加をめざした小地域福祉活動の推進

[地域の皆さんができること]

『絆づくりは挨拶から』

人と人のつながりの大切さが叫ばれている現在、まずは町中で出会った人に気軽に挨拶をすることで元気な涌谷町にしていきたいと思います。

- （ 例えば・・・ ● 友愛活動として地域高齢者への安否確認
 ● 声かけ、あいさつ運動
 ● 見守り・パトロール隊の結成 ）

◎福祉教育・ボランティア活動の推進と支援

[地域の皆さんができること]

『今、地域に目を向ける』

「知らない」ために始められないことが地域には数多くあります。今こそ地域に目を向けて活動を始める「きっかけ」を掴みましょう。

- （ 例えば・・・ ● 地域住民への関心を持つ
 ● 仲間づくり、趣味活動への参加
 ● イベントへの参加（参画）
 ● 生涯学習として福祉を学ぶ ）

◎情報の共有・総合相談・生活支援機能の充実

[地域の皆さんができること]

『つながりは井戸端会議から』

お茶っこ飲みや立ち話による情報交換が生活を豊かにします。井戸端会議などのつながりを大事にしましょう。

- （ 例えば・・・ ● お茶飲みがいつでもできる場所（溜まり場）の確保
 ● 世代間交流の実施
 ● 地域でのサロンの活性化 ）

●●● Pick up 社協事業 ●●●

◆◆◆ 6区 地域福祉懇談会 平成23年2月1日(火) 10:30~ ◆◆◆

社協職員による見守り活動についての講話と下町区渡辺照男氏による「人生いろいろ」と題したお話の2部構成で地域福祉懇談会を行いました。渡辺氏のお話では地域での繋がりの大切さや「絆」について歌や手品を交えて楽しく話してくださいました。

社協からは渡辺氏の講話の流れを汲む形で、見守り活動と地域の現状、これからの繋がりの作り方についてお話をさせていただきました。



◆◆◆ 社協が進める「見守り活動」とは… ◆◆◆ 《小地域福祉見守りネットワーク活動》

小地域福祉見守りネットワーク活動とは、同じ地域に住んでいる日常적인見守りが必要な人を小地域単位で支援する取り組みのことをいいます。

見守り活動が活かされるケースとしては…

『いつも早起きで元気な一人暮らし高齢者のAさん宅の新聞受けに新聞がたまっていることに気づいた近所のBさんが、地域福祉会長と訪ねてみると、Aさんは発熱もあり体調不良で2、3日寝込んでいる様子。すぐに関係機関へ連絡し、病院に運び大事には至らなかった。』といった場合が考えられます。

地域の繋がりが希薄化する現代社会に即した、地域の特色に合った見守り活動を社協では支援します。地域からお声がけをいただければ、日常で気軽にできる見守りの紹介まで何でもご相談に乗らせていただきたいと思います！よろしくお願いたします！！



ひとり暮らし高齢者ふれあい事業「さくら会」

～出会いは、たからもの～

さくら会は、毎月参加者皆さんの明るい笑顔と元気な笑い声に会場が包まれ、楽しいひと時を過ごしています。

先日、参加者の一人からあたたかい声をいただいたので、ご紹介します。

『毎月さくら会に参加することを楽しみにしています。この会に参加して参加者の皆さんと交流することで涌谷町民になれたように思います。私にとって「さくら会」は神様です。』とにっこりと微笑んでお話ししてくださいました。他町から越してきたこの参加者にとって町の人とふれあうきっかけの一つが、さくら会だったのでしょう。

参加者一人ひとりが、「さくら会」での出会いからたくさんの喜びを感じていただければと思います。

～平成23年度“さくら会”について～

対象者へは、地域の民生委員を通じてご案内します。参加お待ちしてま～す。



ぼらんていあさんが通る

ボランティアセンターみんなの学校

ボランティア・パワーアップ講座 (1/14)

ボランティアグループの代表者および活動経験5年以上の会員、ボランティアの役員36名の参加を得て開催しました。

講座ではNPO法人ひまわり理事長で長年、涌谷町老人保健施設などで個人ボランティアとして活動している村岡輝道氏に「自分流ボランティア活動のすすめ」また、吉住行政区で配食サービスをしている白百合の会の佐々木ユリ氏に「地域に根ざしたボランティア活動の実践から」と題して、お話をしていたきました。

村岡氏は「ボランティアはしてあげるのではなく、させていただく。活動は受け手側のためでなく、自分のためである。自分も懐中時計のようにネジを回さないといけないので、ボランティア活動は自分の潤滑油である。」佐々木さんは、平成6年から活動しているが「一度も見返りを考えた事はない。誰かに評価されたいというのは論外である。」ということとを話されました。

参加者には、ボランティア活動の大先輩からの素晴らしい助言と励ましになりました。



出前講座・福祉教育

★涌谷第一小学校四年生 キャップハンディ体験と福祉講話 (11/29・11/30・12/3・2/10) ★

第一小学校四年生92名が視覚障害と下肢障害の疑似体験をしました。また、下小塚区の盲導犬ユーザーである金山幸一さんから日常生活についてのお話の後に、パソコン操作や盲導犬パズーとの歩行を見せていただきました。金山さんから、「視覚障害者の方が困っているのを見かけたら、声をかけてください。」というお願いがありました。目に障害があり、生活するのがとても大変という意識が強かった子供たちは障害があっても自分たちと同じ生活をしている事を知りました。



★涌谷第三小学校 福祉体験学習 (2/7・2/8) ★

涌谷第三小学校として最後になる福祉体験学習を四年生7名が耳の不自由な人についての学習で、ボランティアグループ手話の会「ダンボ」の指導により聴覚の疑似体験と手話の学習を行いました。五年生6名は「ゆうらいふ」を会場にバリアフリーや聴覚障害について学習しました。

下肢障害の疑似体験や施設見学をする事で知識だけでなく、バリアフリー、ユニバーサルデザインの大切さを体で感じとる事ができようです。



ボランティア活動 大きな手 小さな手

涌谷中学校図書ボランティア 三区 大内 敬四郎

2年前から水曜と金曜の週2回、3時半から5時迄、涌中の図書ボランティアを4名でしています。「かたつむり」のような歩みだったように感じています。

4階の図書室は遠く、部活もあり殆ど利用者はありません。当番も利用者も来ない時もありました。去年は、書架のレイアウトと本の整理整頓をしました。今年度は、各クラスの図書委員が選定した本を通箱に入れ教室に持って行き、読書アップに繋げようとしています。利用が無いのは、場所的な問題や読みたい本が無いからでしょうか。生徒の会話や図書委員会に出席して、元気なエネルギーを頂きました。学校として更に充実した図書室を目指しているようです。



涌谷の財宝である生徒さんが困難を乗り越え、前向きな生き方ができるように、町の皆さんで出来る範囲内でボランティア支援をして参りましょう。

地域ふれあい活動紹介コーナー

<地域から提出して頂いた報告書（レポート）を掲載しています。>

2の3区『お茶っこ飲み会(クリスマス)』 12月12日(日)

いつもはゲストをお招きするのですが、今回は参加者が主役となって楽しんでもらうよう計画をたてました。皆さんに喜んでもらえたので良かったです。ビンゴゲームは、初めての方が多く時間がかかりましたが景品も用意したので楽しめたようです。福祉推進員が全員参加し、準備、接待、後片づけがスムーズに出来て、連帯感が感じられました。新しい民生委員さんの紹介とこれまでの民生委員さんのご苦勞をねぎらうことができました。



9の2区『クリスマス会』 12月20日(月)

参加者で体を動かしたり、歌を唄って体もほぐれ、本当に良かったです。村岡輝道さんのハーモニカ伴奏で歌も唄えたり、サンタさんからのプレゼントももらいましたし。おいしい昼食をごちそうになりました。『今日は若い方がいらしていいですね。』と若い福祉推進員の参加を喜んでいました。若者との交流で「元気が出るネ」とお話があったり、大笑いの声が響き渡る楽しいクリスマス会となりました。



10区『クリスマスプレゼント配付』 12月23日(木)

ケーキを毎年配付していますが、お年寄りには食べる物が一番嬉しい様です。中には戴いてばかりで申し訳ないから御礼をしたいという方もいますが、行事の内容を説明して納得して貰い、来年も来るから元気でと声をかけると、待つていますと喜んでくれました。



脇区『世代間交流グランドゴルフ大会』 11月7日(日)

運動不足が解消される。若いからといって強くないのでおもしろい。『ミニディサービス』1月30日(日) 社協から職員の方に来ていただき、「見守り活動について」お話をしていただきました。質疑応答では老後の生活や施設利用について質問が多くでした。今後は行政区长や民生委員と相談しながら地域の人達に対応したいと思えます。



下小塚区『一人暮らし高齢者宅訪問』 1月30日(日)

対象者9名の方の自宅を訪問し、食品と日用品を届け、近況を聴く。自治会と福祉会の共催事業と位置付けて行われている。対象者の中には恐縮して受け取るのを拒む方もおられたが、概ねは喜んでいただいた。せっかくの訪問なので短時間でも良いからお邪魔をして、世間話ができるといいのだけれど、殆どの方が数分で終了したようだった。



共同募金運動にご協力ありがとうございました。

平成22年度 歳末たすけあい募金運動 結果報告

(平成23年1月31日現在)



12月1日から歳末たすけあい募金運動が「みんなでささえあうあったかい地域づくり」をスローガンに実施され、町民のみなさまのあたたかいご協力により、たくさんの募金が寄せられました。

募金総額 2,148,643円

内 訳	金 額	備 考
戸別募金		
・一般世帯	2,003,060円	4,671件
・会社企業	95,378円	44件
篤志寄付	48,183円	窓口受付分 5件
そ の 他	2,022円	募金箱

この募金は経済的に支援を必要とする世帯に民生委員を通じて「歳末たすけあい配分金」としてお届けしました。

配分内容

内 容	金 額	備 考
配 分 金	2,147,000円	85世帯 (家族加算64人)
事務費等	1,643円	封筒代等

配分対象者及び配分額は歳末たすけあい配分委員会で決定され一世帯23,000円と家族加算1人(世帯主除く)につき、3,000円を配分しました。

※生活保護世帯は配分対象外となっています。



平成22年度 赤い羽根共同募金運動 結果報告

(平成22年12月31日現在)



赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

10月1日から全国一斉に行われた「赤い羽根共同募金運動」では、町民のみなさまのあたたかいご協力により、たくさんの募金が寄せられました。

募金総額 2,976,652円

内 訳	金 額	備 考
戸別募金		
・一般世帯	2,519,200円	4,715件
・企業募金	72,000円	36件
学校募金	82,213円	15件
職域募金	217,976円	58件
街頭募金	58,250円	2件
募 金 箱	16,413円	8箇所
そ の 他	10,600円	窓口募金等 3件

平成22年度に集められた募金は、宮城県共同募金会を通じて翌年度(平成23年度)に民間の福祉事業(社協・福祉団体・ボランティアグループ等)や町内会活動支援(災害用備品等)に配分されます。

※配分先は、宮城県共同募金会の配分委員会で厳正なる審査後に次年度配分決定となります。



「10月1日の街頭募金の様子」

～わたしたちは、あなた「You:ゆう(利用者:家族:地域住民)」と共に、
あなたの生活「Life:らいふ(生活:人生:生涯)」を大切にします～

ゆうらいふ
社会福祉法人 涌谷町社会福祉協議会

通 信



『鬼は外！福は内！』
～特別養護老人ホーム～

今年は職員が手作りした鬼の顔を使って“福笑い”を行いました。さまざまな表情の鬼ができ、その後はみんなで厄を払い1年の無病息災を願いました。



『新年会』～グループホーム～

新しい年を無事に迎えられた事に感謝をしながら、盛大に新年会をしました。

福笑いや二人羽織など、昔に慣れ親しんだ遊びはとても懐かしかったようで、皆で大笑いしながら、共に楽しむ事ができました。

今年も良い年を過ごす事が出来そうです。



『おやつ作り』～五番町デイサービス～

五番町デイサービスの2月のおやつ作りは『はっと汁作り』でした。『戦争中は食べ物がなく、メリケン粉を練ってつめりにして、食べだっけなあ～』『こんないっぱい具が入って味がいいごだあ』等昔の話で盛り上がり、気持ちも体も温まったひと時でした。



『介護の授業』～涌谷高校編～

涌谷高校の「家庭看護・福祉」選択科目で、ゆうらいふの職員が講師となり6回にわたり授業を行いました。介護保険制度や実技体験を通して介護への理解を深めて頂きました。



『自宅で生き生きがい』

～ヘルパー利用者さん紹介～
佐々木吉郎さん 79歳(六区)



仕事中的事
故から寝たきりとなり、訪問入浴と訪問看護を利用しながら在宅で生活しています。競馬やテレビ鑑賞、読書など趣味も多く、いつも楽しませて頂いています。

も様々なお話を頂き、訪問スタッフを楽しませて頂いています。

同居している小学生の子供とは共通の話題も多く、兄弟のように話が出来ること。外に出られる機会が少なくなってきたからこそ、楽しみを持ちながら過ごすことが大切と吉郎さん。同居している子供達の成長が一番の楽しみで、一緒にテレビゲームを楽しんだり、子供との交流が一番のポケ予防と話してくれました。



【サービス紹介】

ゆうらいふ訪問入浴サービス

(指定訪問入浴介護 介護予防入浴介護 事業所番号 0473100337)

ご自宅のお風呂で入浴が困難な方のお宅へ、入浴設備付の専用車両で訪問させて頂き、お部屋で安全、安心な入浴がご利用になります。

サービスの流れ

スタッフ3人(介護2人、看護1人)が自宅をお伺いします。



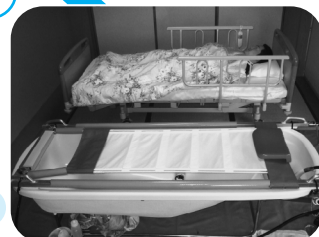
ゆうらいふでは、天平の湯と同じ源泉水を使用し、ご自宅でも温泉入浴をお楽しみいただけます



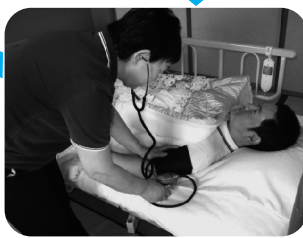
スタッフが入浴の介助をします。



『気持ちよかった』と感じただけよう、個々人の心身の状態に合わせたケアを心がけています。



お部屋に浴槽を設置します。



看護スタッフが、入浴前に体調の確認をします。

また来ます！



片付けて、入浴後の体調を確認します。



宮城県生命保険協会より福祉巡回車寄贈されました。



宮城県生命保険協会では加盟会社の職員等を対象に毎年募金活動を実施し、福祉施設や団体等に福祉器具や活動費を寄贈しています。今年度は、涌谷町社協への車両寄贈の他、県内の7施設・団体が贈呈を受けました。

日本財団より福祉車両購入費助成されました。

【2010年度日本財団福祉車両助成事業】



車椅子対応のスロープ付き送迎車1台を購入しました。

利用者満足度調査を実施

昨年12月にゆうらいふのサービス利用者(家族)、関係のある介護保険事業所を対象に満足度調査を実施しました。調査結果等はゆうらいふ各事業所で閲覧できる他、社協のホームページに掲載しています。サービス向上に役立てさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

社協ホームページ みんなでアクセスしてね！

涌谷町社会福祉協議会

検索



ホームページ <http://www.wakuya-sfk.net/>

社協のホームページでは、地域福祉事業やゆうらいふの介護サービス事業を詳しく掲載しています。「わくや地域ふれあい活動記」や「ゆうらいふケア日記」として施設内外で行われた活動をお伝えしています。